

2023/03/01 Fw:東北 Fan Meeting 2022 東北デジタル創生塾 Vol.10

デジタル活用で再構築される市民参加のプロセス ～市民エンゲージメントツールDecidim事例から～

一般社団法人コード・フォー・ジャパン / 東 健二郎
お問い合わせ decidim@code4japan.org

Agenda

Decidimの事例をご紹介しながら、
デジタルを活用することで市民参加のプロセスをいかに再構築できるかを考える

1. 簡単な自己紹介・Code for Japanについて
2. Decidimについて
3. まとめ

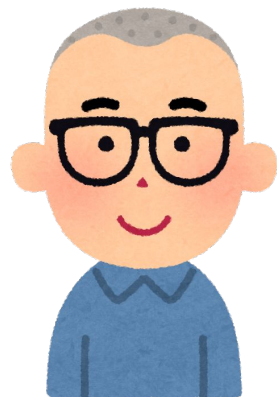
01

自己紹介、Code for Japanについて

自己紹介



note



東 健二郎

岡山県岡山市生まれ。京都府京都市在住。

食品会社での投資家向け広報業務を経て、2007-2020年京都府職員。
東日本大震災時には、3月22日から1週間会津若松市内の避難所にて
支援業務に従事するほか、京都への避難者に対する支援業務を行う。

この間、内閣府勤務、京都大学公共政策大学院非常勤講師。

2020年よりCode for Japanメンバー。
Decidimのプロジェクトマネージャーとして活動。

この他、
NPO法人Code for OSAKA 副代表理事、滋賀県日野町参与、
京都精華大学メディア表現学部非常勤講師（データサイエンス）、
大阪大学招へい研究員、武蔵野大学客員研究員なども務める。

ともに考え、ともにつくる社会



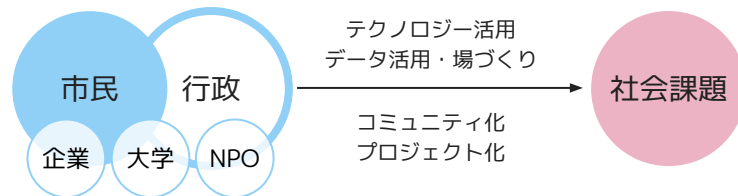
オープンにつながり社会をアップデートする

シビック(市民) × テック(技術)

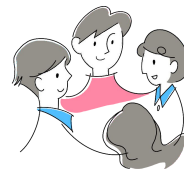
市民・民間企業・教育機関や行政の垣根を越えてアイデアを出し合い、自身のスキルを生かしながら参加する。

Who	市民(Civic)
What	困りごと解決・アップデート
Where	暮らしているまちなど
How	技術(tech)を活用しながら

シビックテックのアプローチ



シビックテックの特徴



垣根を越えた
オープンな繋がり



アイディアと
ノウハウの蓄積・共有

ブリゲードコミュニティ

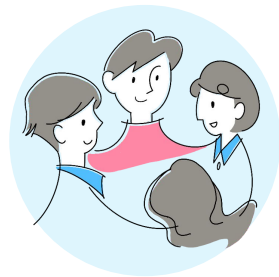
地域の中で活動するコードフォー
コミュニティ。

90以上のコミュニティが活動して
おり、規模や活動テーマ、活動内
容は様々。

ブリゲードは独立した団体とし
て、各ブリゲードの自主性に基づ
いて様々な活動をおこなう



3つの活動領域



コミュニティ

- ハッカソン・アイデアソンなどのワークショップ実施
- ブリゲードとの協働
- NPOや社会起業家の支援



GovTech

- 行政の透明化
- 行政のDX支援
- 様々な主体との協働



Make our City

- 参加型まちづくりの推進
- Decidimの提供
- オープンソース都市OS開発

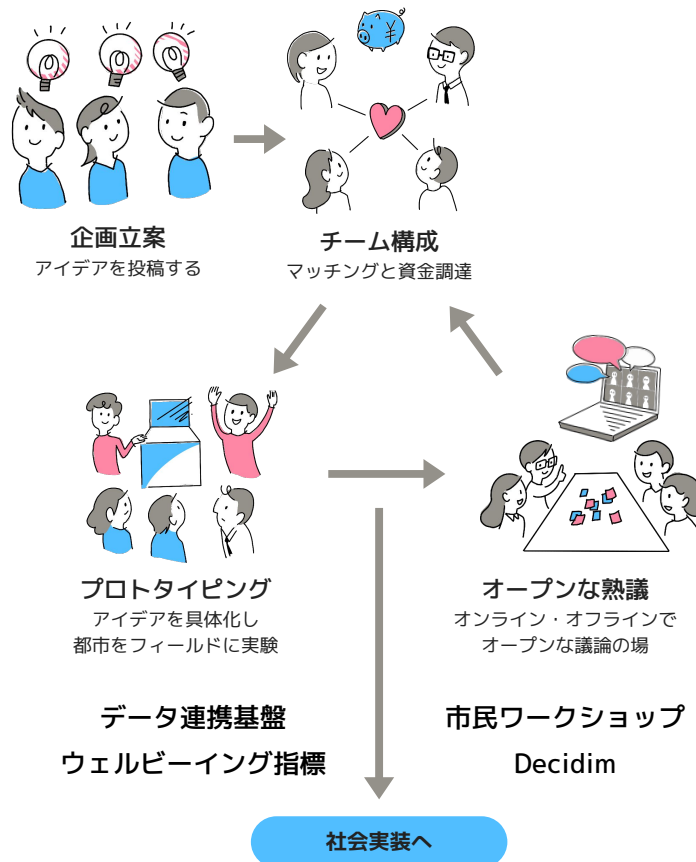
わたしから始まるまちづくり

Make our City



誰もがアイデアを実験できるオープンなプロセスを作ること、多様な人々がまちをよくするために活動ができ、仲間を集められる状況をつくるプロジェクト

Decidimの提供やワークショップの実施、オープンソースの都市OSなどを提供中



02

Decidimについて

Decidimについて

Decidimは、2016年にバルセロナで誕生したオープンソースによる市民エンゲージメントのためのプラットフォームです。（※カタルーニャ語で「我々で決める」）

世界各地での運用実績

バルセロナから世界各地に広がり、スペイン、フィンランド、アメリカ、メキシコ、台湾などをはじめ30カ国や地域・450サイト、約100万ユーザーが利用しています。

日本における展開

2020年10月に兵庫県加古川市で初めて導入され、国・自治体・民間部門で、約20サイトで利用されています。

<https://decidim.org/ja/>



Decidimの機能的・テクニカルな特徴

- WebサイトとSNSの中間的存在
- 参加プロセスに応じた様々なコンポーネントを提供するWebサービス
- データの公開と保護

テクニカルな特徴：WebサイトとSNSの中間的存在

Webサイトとしての特徴

- スマホ対応
- 標準テンプレートで即時運用が可能であり、その上で柔軟なページ作成も可能
- ページは構造化され、コメント等をAPI経由で取得可能
- 最新のフレームワークへのアップデートが進行中



<https://shibuya-goodtalk.diycities.jp/>

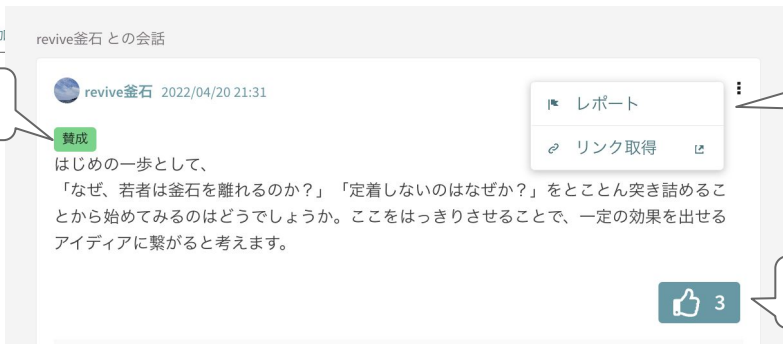
テクニカルな特徴：WebサイトとSNSの中間的存在



SNSとしての特徴

- ユーザーページを持ち、タイムライン表示・フォロー・フォロワーの設定・バッジ付与ができる
- シェア・いいねボタンやユーザー同士のDM機能
- グループを作成し、活動ができる
- オプトインにより登録メールアドレスあてに通知

賛成・中立・反対



機能的な特徴：合意形成を進めるプロセスとコンポーネント

参加プロセスに応じた様々なテンプレート（コンポーネント）を提供するCMS

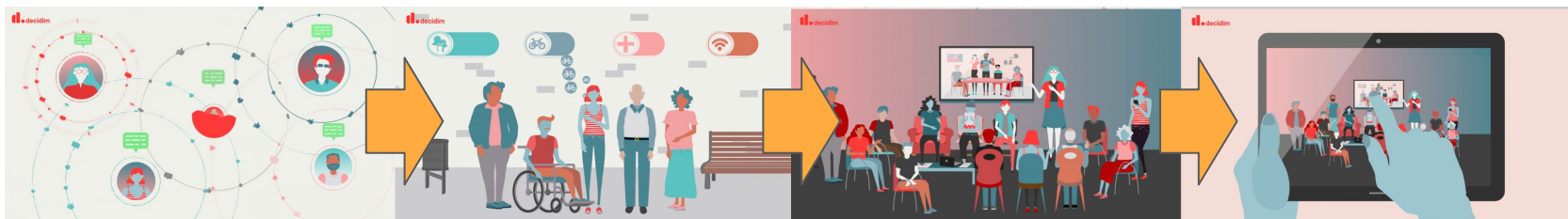
プロセス 戦略立案・住民参加型計画策定・討論・署名活動・相談受付・参加型予算編成等

アイデアを集める

アイデアをシェアする

ディスカッション・投票

進捗を公開・確認する



コンポーネント

ミーティング	提案・投票	調査	ディベート	ブログ	進捗報告
--------	-------	----	-------	-----	------

コンポーネントの利用例

投票機能（例：加古川市・複合施設愛称案）



- 内容の確認
- 投票ボタン
- 投票数集計

ミーティング機能（例：次第・議事録の作成）



- Zoomリンク

- 会議次第

- 議事録

- YouTube埋め込み

コンポーネントの利用例

事例の整理・共有

- 文字列検索
- カテゴリ検索

15 の提案

以下のフォームは、検索条件が変更されたときに検索結果を自動的にフィルタリングします。

検索

ステータス
すべて
未読済み
お気に入り
お気に入り
お気に入り

カテゴリ
すべて
行政
教育
経済
その他

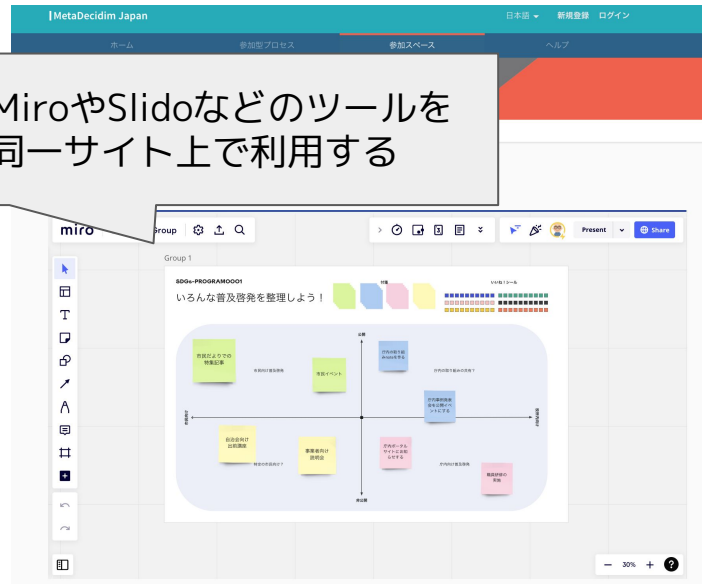
提案者
すべて
参加者
グループ
ミーティング



- サムネイル表示
- 並び替え

ページ埋め込みの活用

- MiroやSlidoなどのツールを同一サイト上で利用する



コンポーネントの利用例

グループ化による共同作業（SNS側）

メンバー (7)

- happy01 @happy01
コーディネーター
指定日時: 2022/04/01
- happy02 @happy02
コーディネーター
- happy04 @happy04
マネージャー
指定日時: 2022/0
- HIGASHI Kenji @kken78
管理者
指定日時: 2022/0

会話: 非公開。他の誰も見ることはできません。会話はプラットフォームに登録されている参加者またはグループで開始できます。

差出人: 2022年度研修参加グループ, happy04, happy05 + 4
いよいよ研修のスタートです。これから研修参加者専用のページに課題提出などしていただきますので、こちらからアクセスしてください（非公開ページにつき、表からはリンクを出していません）

特定ユーザーをグループ化
グループ内でのDM

グループ内でのナレッジ共有（Web側）

【加古川市 市民参加型合意形成プラットフォーム】

検索

ホーム 参加型プロセス 参加スペース ヘルプ

【非公開スペース】足立ゼミ: Decidim体験
授業でDecidimを使ってみよう

参加スペース 市スマートシティ推進担当からのお知らせ DECIDIMワークショップ 質問コーナー

これは私の参加スペースです

授業などで活用する参加スペースです

このスペースでは、以下の内容が共有されます

- Decidimの体験的理解
- Decidimをはじめとしたもの

非公開・公開設定の切り替え
特定ユーザーのみ招待制

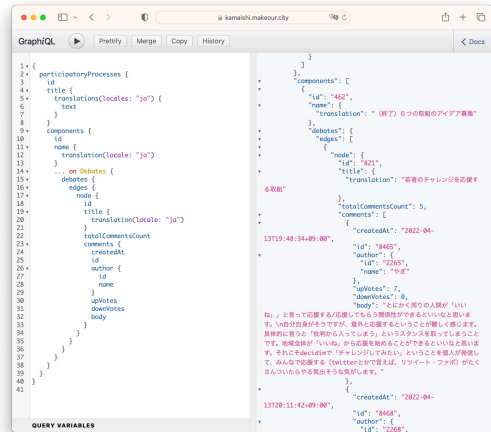
decidim
free open-source participatory democracy
for cities and organizations

2021/09/2022
終了日
31/12/2021
リファレンス: kakogawa-ASSE-2021-09-34
共有
埋め込み

【非公開スペース】足立ゼミ: Decidim体験: これは私の参加スペースです

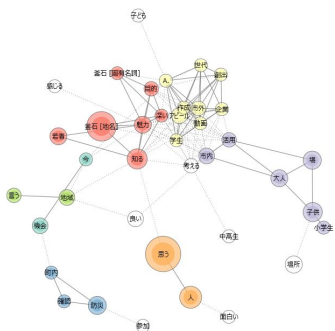
テクニカルな特徴：データの公開と保護

API (GraphQL)でのデータ公開と活用



多様な本人確認手段、オプトイン方式

- OmniAuth (RubyでのOAuth認証モジュール) による認証フローの作成
 - Facebook
 - Twitter
 - Google
 - LINE ※CfJで開発
- 登録自己情報の本人通知機能
- 通知有無やDM受け取りなどはすべてオプトインで有効化を行う
- 管理者による個人情報へのアクセスの監査



さまざまなDecidim

スペイン・バルセロナ市

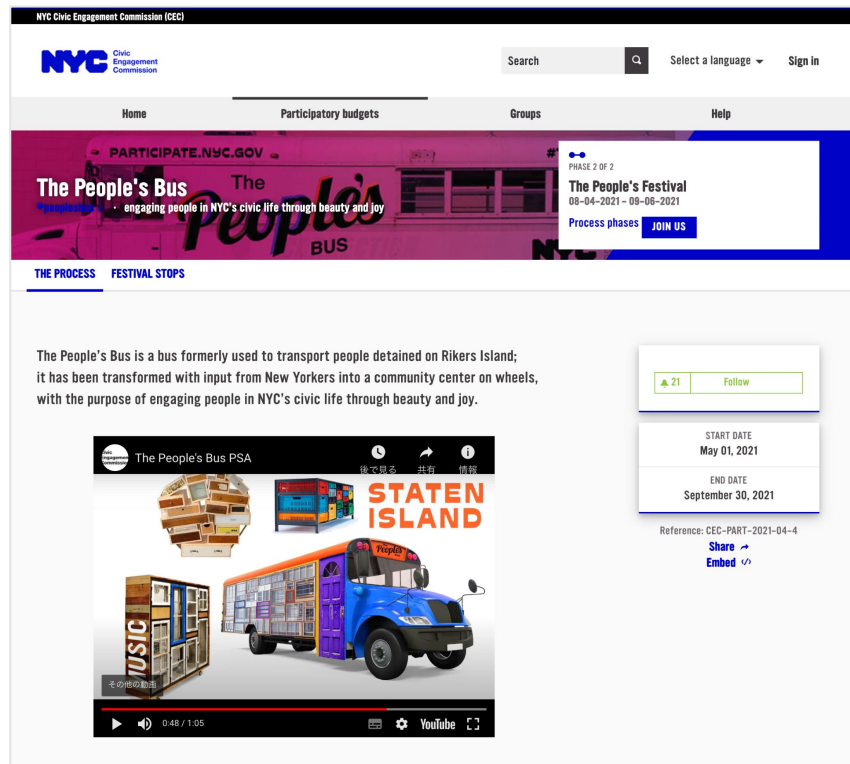
- 18テーマ・100件以上の市民参加プロセスがあり、市民エンゲージメントのプラットフォームとして定着
- 参加者約15万人、コメント総数は34万件にのぼる
- 参加型予算に、約7万人が参加
 - 最終的には4万人が2,000件の提案に対して投票し、合計20万票により800件を採択
- リアルの空間で随時ワークショップや登録受付をしている



さまざまなDecidim

アメリカ・ニューヨーク市

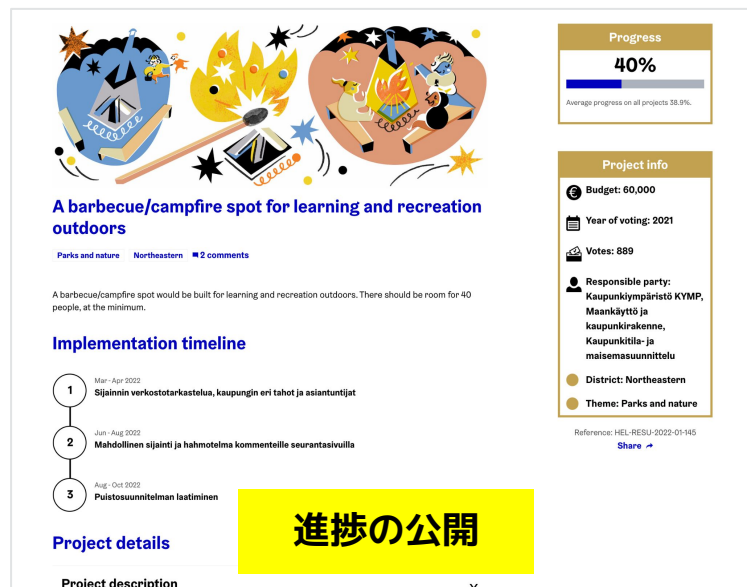
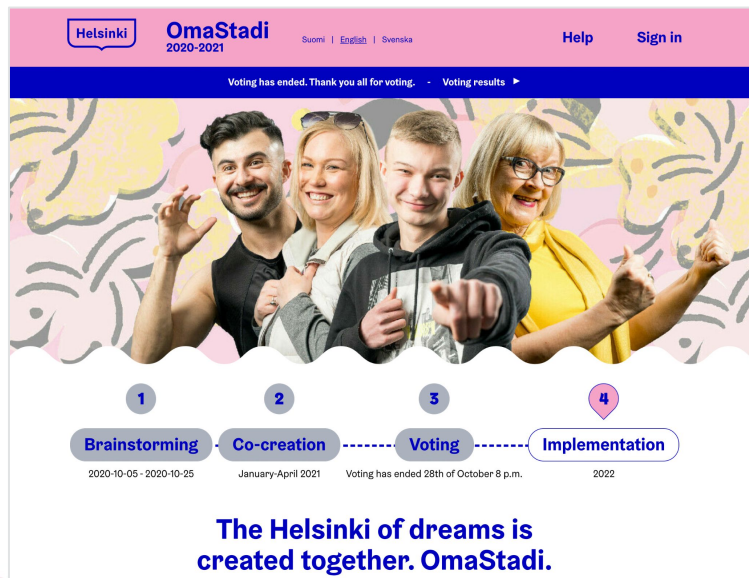
- 25コミュニティ単位で参加型予算編成プロセスを実施
- 9～24歳の「若者」が参加でき、アイデアの提出・投票権を付与。投票には、紙の投票用紙・電話投票の手段も
- 回答者に抽選で50ドルギフトカードが贈られるニーズ調査を実施するなどアイデアを実装するプロセスを運営



さまざまなDecidim

フィンランド・ヘルシンキ市

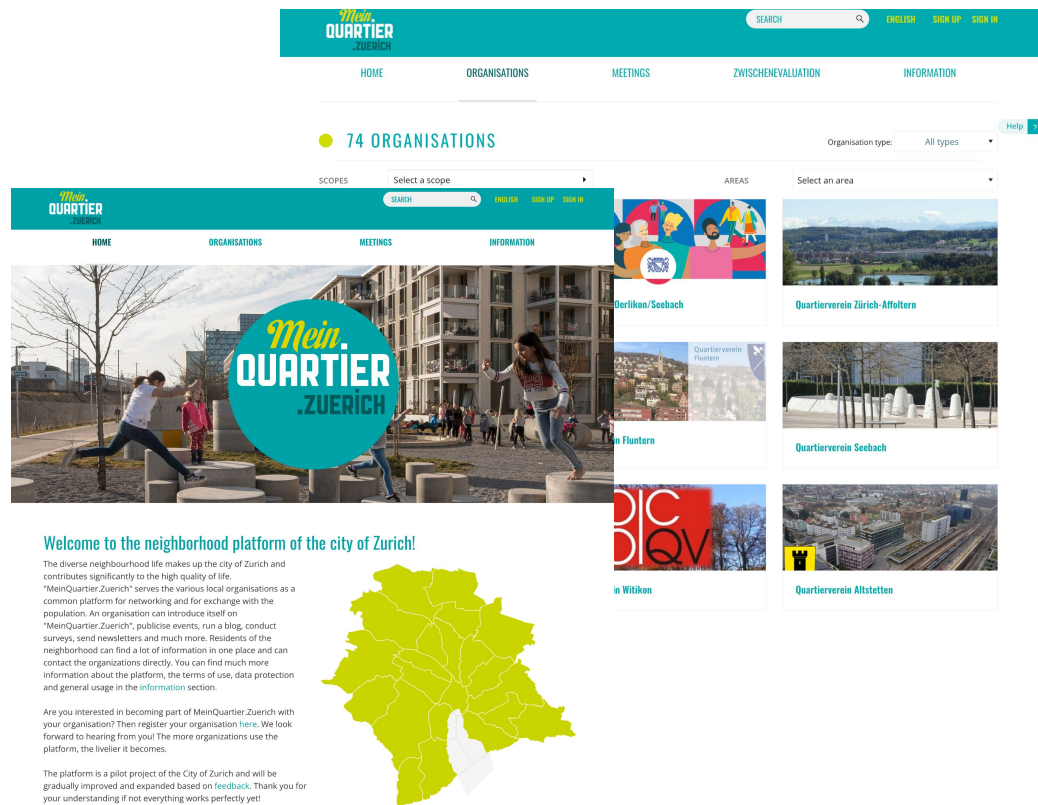
- 880万€の参加型予算編成プロセス。市民から1,463件の提案を397の政策案にまとめ、有権者は12歳以上。47,064人が投票し（投票率8.1%）、75件を採択
- 身近なまちづくりへの予算措置として、代表制民主主義と相互に補完するもの



さまざまなDecidim

スイス・チューリッヒ市

- 市内74地区内のネットワーキングと住民との交流のための共通のプラットフォームとして試行
- メンバーの自己紹介、イベント宣伝、ブログ運営、アンケート実施、ニュースレター発行など地区協会の取り組みを紹介
- 地区の住民は、地元や周辺の様々な情報をワンストップで見つけて、直接問い合わせることができる



さまざまなDecidim



フィンランド・トゥースラ市（人口約4万人）

- 10万€の参加型予算編成
- 136アイデアに2,455人が投票、29件採択
- 有権者は小学生以上、投票率7.4%



メキシコ・メキシコシティ

- オープンガバメントに関する各種取組
- 各種委員会の選任プロセスに活用
- プロフィール確認や面接への参加

日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

官民間問わず幅広い分野でのコミュニケーションプラットフォームとしての活用がはじまっています。

パブリックコメントのアップデート

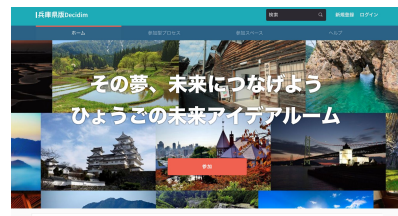
● 計画策定プロセスへの適用

パブリックコメントに追加する形で、市民同士・市民—自治体のコミュニケーションの場として運用

● 多様で個別のニーズを反映する仕掛け

(例) 兵庫県加古川市

- 地元高校生が多数参加し、これまでとは異なる層にアプローチ
- 高校生の意見がコメント全体に変化をもたらす
- オンライン・オフライン双方での対話により計画を策定



日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

官民間問わず幅広い分野でのコミュニケーションプラットフォームとしての活用がはじまっています。

ボトムアップでの特徴あるアプローチ

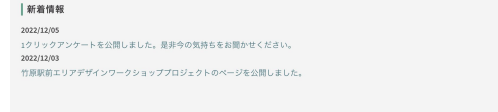
- 公共空間等のプレイスメイキング

まちの広場や公園などの公共空間等について、管理者と参加者が利用ルールの整備・活用を協働して行う

まちの公園・広場



歩きやすい駅前



日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

官民間問わず幅広い分野でのコミュニケーションプラットフォームとしての活用がはじまっています。

ボトムアップでの特徴あるアプローチ

● デジタルシチズンシップの展開

(例) 福島県西会津町

- アントレプレナーシップ教育で中学生がまちづくりを提案を行い、大人たちと連携して実装を目指す

(例) 兵庫県加古川市

- 高校生が企業プロボノ・市役所職員 のサポートを受け、市長に政策提案、実証実験を実施



日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

官民間問わず幅広い分野でのコミュニケーションプラットフォームとしての活用がはじまっています。

ボトムアップでの特徴あるアプローチ

● 地域運営組織での活用

(例) 京都府与謝野町

- 500人規模の集落での活用
- 自治会とのワークショップで出たアイデアを具体化
- 自治会役員を管理者とするページを役場Decidim内に開設



<https://yosano.makeour.city/assemblies/kanaya>

日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

民間セクターが主体になり、複数地域が利用するプラットフォームとしての活用も進んでいます。

民間主体での取り組み

- 民間企業による複数地域での展開

まちづくりのプロジェクトの共通プラットフォームとして横展開する事例が登場
(東京都渋谷区・長野県信州地域)



<https://shibuya-goodtalk.diycities.jp/>



<https://shinshu-goodtalk.diycities.jp/>

日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

民間セクターが主体になり、複数地域が利用するプラットフォームとしての活用も進んでいます。

民間主体での取り組み

● 共創型人材の育成プラットフォーム

阪神間で産学官民協働を推進するための共創型人材育成研修において、プロジェクト管理ツールとして活用し、共創体験を見える化



アクティブな参加型プロセス



グループ1 スナックキッチンカー



Day2 9/6



グループ2



グループ3 ★街づくり

日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

民間セクターが主体になり、地域活性化のプロセスを生み出す仕掛けとして活用が進んでいます。

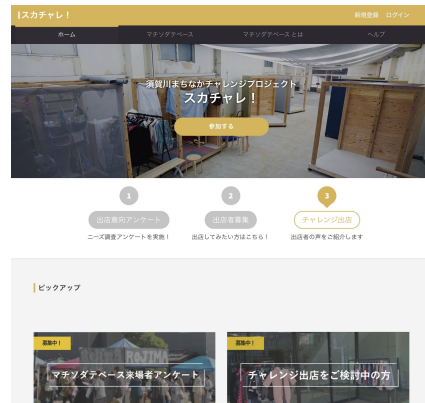
民間主体での取り組み

- リビングラボやチャレンジショップの共創プロジェクト

企業が開設するリビングラボや中心市街地の賑わい創出のためのチャレンジショップの参加メンバー募集や共創のプラットフォームとして運営



<https://shirahama.mygroove.city/>



<https://sukagawa.mygroove.city/>



日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

民間セクターが主体になり、地域活性化のプロセスを生み出す仕掛けとして活用が進んでいます。

民間主体での取り組み

● 地域のキープレイヤーによるアクション

プロサッカークラブへのサポーターの活動をゼロ・カーボンアクションに組み合わせる
(長野県信州地域)



<https://shinshu-goodtalk.diycities.jp/>

知ってほしい！「ゼロカーボンチャレンジマッチ」を実現するには？

ホームゲーム開催すると、一試合全体でどうしても、約6,500キログラムのCO2が発生してしまう・・・
1本の木が1年にCO2を取り込める量は約14キログラム。計算すると、約460本の木を一試合毎に植えないと、CO2排出量をゼロにすることはできません。
そこで みんなでつくる「ゼロカーボンチャレンジマッチ」を実施！

ゼロカーボンチャレンジマッチってなんだろう？

どんなに頑張っても、1試合のホームゲームで約6,500kgの二酸化炭素が排出されてしまいます。
だからこそ、**みなさんのエコな活動や取り組みで二酸化炭素を少しでも削減することで、排出されてしまう二酸化炭素の量と、森林などが吸収してくれる二酸化炭素の量を同じに近づけ、来シーズンのホームゲームで発生する二酸化炭素の排出量をプラスマイナスゼロを目指すプロジェクト**

それが「ゼロカーボンチャレンジマッチ」です。



日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

同一テーマでのアイデアを地域横断的に共有するプラットフォームとしての活用も検討されています。

同一テーマでの共同利用案

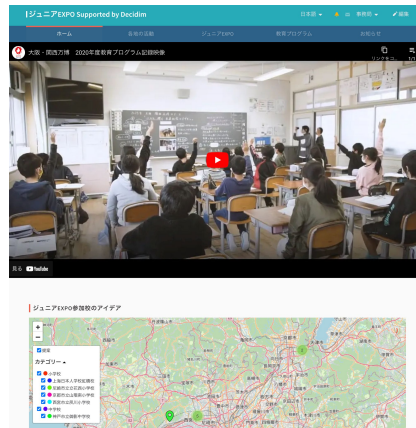
- 気候市民会議のプラットフォーム

無作為抽出等によって選ばれた市民が、気候変動対策について話し合う会議のポータルサイト



- 大阪・関西万博を見据えた教育活動

SDGsについて学び、万博への理解を深める地域横断的な学校教育活動のポータルサイト



※フランスでの気候市民会議Decidimサイト

03

まとめ

プラットフォームを取り巻く可能性

- ・ **新規性**

いろいろなことができそうだという実感が伴っている。

- ・ **熟議？**

役所ホームページよりも長い閲覧時間。じっくり読んでいるユーザーの存在。

- ・ **フランクなコミュニケーション**

公開の場でフランクに議論ができる。「中の人」とやりとりするノリが生まれている。

- ・ **双方向 + α**

役所だけでなく他の参加者の意見を知ることができる。

- ・ **コロナ禍でのオンラインの経験**

オンラインが日常化した中で、オンラインを抜きにした方法は、もはや考えにくい。

プラットフォームを取り巻く課題（運用面）

- ・ **代表性・意見集約**

どこまで言っても「一部の人の意見」ではないのか？

多様な意見が出たとして、それをどのように集約するか？

- ・ **行政側の対応コストや能力**

一つ一つにどう返信するか・できるかジレンマを抱えるのではないか？

- ・ **ポピュリズムの危険**

民意は無視できないとはいえ、いいね！が多い意見が本当に正しいか？

- ・ **参加者のリテラシーやアウトリーチ**

参加してもらうこと自体にハードルがある。

プラットフォームを取り巻く課題（技術面）

- ・ **テキストベースでの意見交換とデータの活用**

何かしらのテキストマイニングを行うことなどが試みられているが、生身のファシリテーターとの協働はどのようにすればよいのか？

- ・ **意見表明のラストワンマイル問題**

ふと思い浮かぶ「身近な」プラットフォームになるのか？

- ・ **IDの問題**

諸外国はそれぞれのデジタルID政策（住民登録ID、学校ID）と連動している。

なりすまし・複数登録への対策が不可欠になる。

さまざまなID・パスワードにあふれた我々の日常がどう変わっていくか。

なぜ、住民参加が必要なのか？

OECD Guidelines for Citizen Participation Processes (2022年9月)

1. 民主主義（＝自分たちのことは自分たちで決めること）のためになる
2. 住民ニーズ・アイデアによって、政策・サービス・プロジェクトの質が向上する
3. ガバナンスと意思決定をインクルーシブで多様性に優れたものにする
4. 意思決定の正統性・正当性と実施する際の容易さを獲得できる
5. 参加は権利である

= それが、オープンガバメントということだから

オバマ大統領「オープンガバメント指令」(2009年)

…establish a system of transparency, public participation, and collaboration



<https://obamawhitehouse.archives.gov/open>

市民参加に関するOECDガイドライン概要

市民参加の10ステップ

1. 課題特定・参加タイミング
2. 期待される成果の定義
3. 参加対象者の特定と募集
4. 適用可能な参加方法
5. デジタルツール・対面併用
6. 透明性確保・わかりやすさ
7. プロセスの実施
8. 意見活用とフィードバック
9. 参加プロセスの評価
10. 参加文化の醸成

プロセスの質に関する9原則

1. 明確さとインパクト
2. コミットメントとアカウントビリティ
3. 透明性
4. 包括性とアクセシビリティ
5. 誠実さ
6. プライバシー
7. 情報へのアクセス
8. 必要なリソースの確保
9. 評価（による信頼向上）

8つの市民参画方法

1. 情報とデータ
2. 公開会議・市民会議
3. パブリックコンサルテーション（≡パブコメ等）
4. オープンイノベーション
5. シチズンサイエンス
6. 市民モニター
7. 参加型予算編成
8. 代表制熟議プロセス

どのように始めたらよいか？

あるべきプロセスを身近なところからはじめてみる

京都府与謝野町



組織内の関係者全員参加のワークショップ

【既存の仕組みを使いクイックに実施】

- 広報広聴担当者の研修として

【必要なメンバーに声をかける】

- 副町長や関係幹部も参加

【参加スタンス】

- 自由な意見交換

成果

- 参加所属からDecidimを活用したアイデア募集のテーマが見つかる

参加プロセスをどう設計するか？

オンライン活用は、単なる効率化ではないことに直面するはず

京都府与謝野町



【報告】 高校生にアイデアを聞きにいってきました

町の花木の普及啓発・活用方法のアイデア

【誰にアイデアを聞きたいのか？】

- 「町の花木」= 幅広い世代

【どういう方法があるか？】

- いっそ聞きに行く
- メール、応募用紙内容を代理で入力

成果

- 検討委員会への提出
- Decidimに掲載するため、これまでの取り組みが整理された

まとめ：筋トレしようぜ

1. 市民参加は「民主主義の筋トレ」。今、実感があるでしょう。
2. 市民参加のプロセスは、古くて新しい事柄。
各国の取り組みを知ることができるという恩恵にもっと意識的になろう。
3. ちなみに、日本の事例は入ってなかった。 どうする~~家康~~日本